

習志野市図書館システムの更新について（報告）

1 事業者の選定について

- (1) 概要
 - ① 次期システムの委託期間 令和5年10月より令和10年9月（5年）
 - ② 公募プロポーザルによりシステム及び委託事業者を選定
- (2) プロポーザル公募期間：令和5年1月17日（火）～3月7日（火）
- (3) 応募者数：1者
- (4) 選定結果

事業者名	得点（180点満点）	提案額（5年総額）
三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社（現委託事業者）	137.16	122,030,700円

※提案上限額 143,920,000円に対する削減額（5年間）

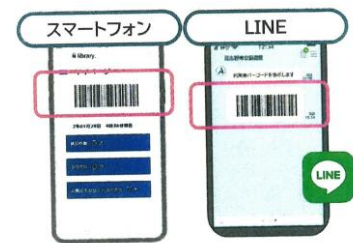
▲21,889,300円

2 次期システムにおける主な利用者サービスの向上内容

(1) DX推進による市民サービス向上

① 図書館カードの形態の多様化

- ・ 本を借りるときに図書館カードを持たずとも手続きができるよう、スマートフォンで、図書館HPのマイページや、市公式LINEで、利用者カードのバーコードを表示。
また、新規の利用登録申込みの際、カードレスを希望する方への対応として、図書館を初めて使う方を対象に、ちば電子申請サービスを通して利用者番号のみを発行する
- ・ 予め図書館カードと紐づけしたマイナンバーカードを、図書館カードとして利用可。



身近なアイテムで図書館利用

② 予約の本が届いたときに、市の公式LINEでお知らせする

③ 移動図書館のオンライン化

- ・ 現地のステーションで図書館と同じようにリアルタイムで検索できるよう、移動図書館の端末をWi-Fiを使ったオンライン対応に変更する。

(2) 図書館システムをより使いやすく

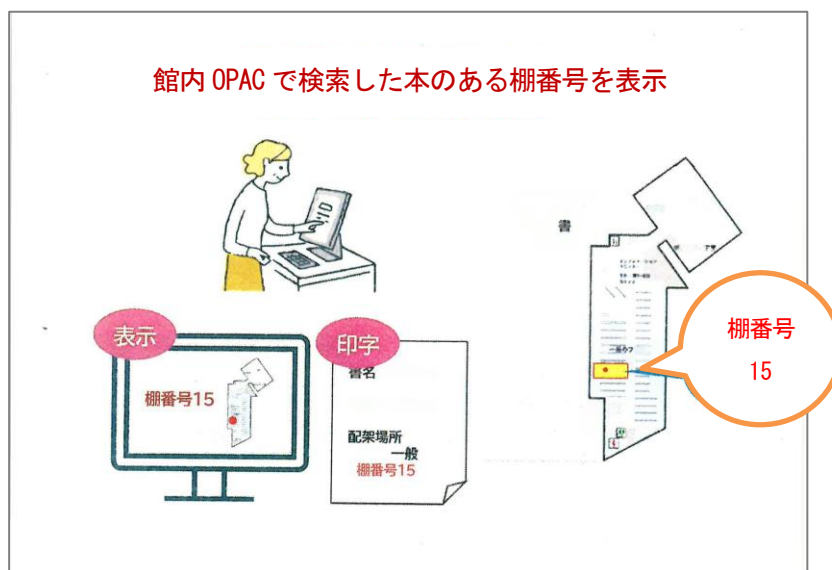
① ホームページをリニューアル

- ・ スマートフォン、タブレット、パソコンいずれの端末で開いても、同じ内容を、端末に適したサイズ、構成で表示する。
これまでではスマートフォン版のホームページでは一部非表示内容あり。

裏面あり

② 蔵書検索結果の書架案内（中央図書館）

- ・ 閲覧室が複数に分かれる中央図書館の、館内 OPAC での蔵書検索結果において、本のある棚の場所が分かるよう地図を表示。



③ 自動貸出機の操作の簡略化（中央図書館）

- ・ 自動貸出機での貸出し時の操作を簡略化しタッチ数を削減。

④ 多機能 OPAC の導入（東習志野、新習志野、谷津図書館）

- ・ 東習志野、新習志野、谷津図書館に、カウンター以外で利用者自身が貸出し処理をすることができるよう、セルフ貸出機能を備えた多機能 OPAC を設置。

(3) 子どもの読書活動推進

- ① 子どもが操作しやすいよう、子どものタブレット端末利用に適した、やさしいメニュー画面や日本語を使用したことも向けホームページを用意。



3 今後のスケジュール

- ・ 第9回 教育委員会議にて報告
- ・ 9月25日（月）～10月4日（水）：システム更新のための臨時休館
- ・ 10月5日（木）：次期システム運用開始